

# 第1回 日本体育学会若手の会セミナー

## グローバルキャリアネットワークの構築 ～なぜその道を選んだの？～

グローバル時代の到来により、人、モノ、情報の往来が激しくなっていますが、それは学术界も同様です。これから海外留学を考えている人も多くいることでしょう。本セミナーでは日本から海外へ留学した若手研究者、ならびに海外から日本に留学した若手研究者に、きっかけ、留学先での生活、資金、国際共同研究、現在のキャリアにどのように活かされているかなど、多様な視点から語ってまいります。これから海外留学・日本への留学を考えている大学院生、学部生、ならびにそのような学生を指導している先生方にとって、有益な情報が得られるはずです。

本セミナーは、若手の会の記念すべき第1回目のセミナーです。若手という言葉を用いていますが、参加者を年齢で制限するつもりはありません。皆様のご参加をお待ちしています。

### 登壇者

吉原 利典(順天堂大学)

関 慶太郎(日本大学)

ライトナー・カトリン・友海子(立教大学)

マーヤ・ソリドワール(津田塾大学)

登壇者のご紹介は、  
裏面をご覧ください

### 司会

城所 哲宏(明治安田厚生事業団 体力医学研究所)

辻 大士(筑波大学)

オンライン開催

参加費無料

プログラム

開会挨拶 18:00～18:05

登壇者話題提供 18:05～19:05

ディスカッション 19:05～19:20

交流セッション 19:25～19:50

閉会挨拶 19:50～20:00

11/13 2020  
18:00～ 金

参加をご希望の方は  
QRコード又はURLに  
アクセスしていただき、  
必要事項をご登録くだ  
さい。申込みURL ↓  
<https://forms.gle/W9xv4aw2KvY5fDt17>



【※切 10月23日(金)】お申込み頂いた方に  
後日、招待メールをお送りします。

主催：日本体育学会若手研究者委員会（日本体育学会若手の会世話人会）

問い合わせ先：ma.asakura@gmail.com

吉原 利典  
Toshinori Yoshihara

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 助教  
順天堂大学スポーツ健康科学部 助教  
2009年、山口大学教育学部健康科学教育課程スポーツ健康科学コース卒業。2013年、順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士（前期・後期）課程修了（2009-2013年）。2011年、日本学術振興会特別研究員DCI（2013-2014年、早期学位取得によりPDへ資格変更）。2014年、順天堂大学スポーツ健康医科学研究科博士研究員。2015年、同大学研究推進センター・COIプロジェクト室特任助教。2017年より2年間、日本学術振興会海外特別研究員として、米国フロリダ大学へ留学。現在は、順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科の助教としてサルコペニアの予防につながる筋肉の萎縮メカニズム解明を目指して研究に取り組んでいる。



ライトナー・カトリン・友海子  
Katrin Jumiko Leitner

立教大学コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科 准教授  
オーストリア出身。立教大学ではスポーツマネジメントを担当。19歳からウィーン大学東アジア学部日本学科（Japanology）で日本語を学びはじめ、その後明治大学で1年間の語学留学、さらに、筑波大学で2年間の研究留学。オーストリア女子柔道代表選手としての経験から日本のスポーツに興味をもち、日本の企業スポーツや日本人アスリートのキャリア形成やセカンドキャリアを研究。2014年にウィーン大学東



アジア研究科にて博士号（日本研究）を取得。主な研究テーマは、スポーツ制度や組織、アスリートのキャリア形成やセカンドキャリア問題等に関する日欧の国際比較研究。

# Speaker Profile

津田塾大学国際関係学科 専任講師  
ドイツ出身。津田塾大学では健康余暇科学科目を担当。2006年、ドイツでハインリッヒ・ハイネ大学大学院人文科学研究科を修了してから国費留学生として来日し、国際武道大学大学院武道・スポーツ研究科入学。2008年、国際武道大学大学院を修了し、早稲田大学院スポーツ科学研究科博士後期課程に進学。2011年、単位取得満期退学し、2013年、博士（スポーツ科学）を取得。その後、明治大学情報コミュニケーション学部推進研究員、上智大学文学部保健体育研究室・常任嘱託講師を経て2015年から現職。研究分野は比較武道論。特に柔道の国際化の歴史と現状及び柔道の指導法の国際比較を研究テーマとしている。



日本大学文理学部助教  
筑波大学大学院人間総合科学研究科博士後期課程体育科学専攻修了（2020年2月）、博士（体育科学）、博士後期課程在学中の2017-2018

年にフィンランド政府奨学金を受けて、University of Jyväskylä (Finland) に Visiting Doctoral Studentとして留学。2018年4月より日本大学文理学部助手、2020年4月より現職。日本体育学会では体育方法およびバイオメカニクス専門領域所属、若手研究者委員。陸上競技に関するバイオメカニクスの研究に従事しており、中でもランニングエコノミーに影響するバイオメカニクスの要因について主に研究している。

ソリドーワル・マーヤ  
Maja Sori Doval

関 慶太郎  
Keitaro Seki